

§ 外部評価報告について §

今回の外部評価報告については、外部評価委員に来校して頂き座談会の形で行なった。また、その議事録を「外部評価報告」とした。その理由として今回の自己点検・評価活動は、認証評価機関による評価（認証評価）に備えた準備として行った。そのため認証評価のように、多岐かつ詳細に定められた基準に基づき分析を行なった訳ではない。点検・評価が報告書の形で現れるよりも、そのプロセスでより多くの教職員の参加を期待したからである。

そのため点検・評価されていない項目が、良いもの、悪いもの双方含まれていると思われるため、正確な評価というのは難しいと考えられる。また座談会という形式を採った方が、本学の現状を分かり易く伝えるものと考えているためである。

なお外部評価については日程の関係上、「管理運営」と「それ以外の分野」とに分けて座談会を行なった。

- ・外部評価報告（管理運営に関して）
- ・日時：2004.12.20（月） 14:00～16:00
- ・場所：上野毛キャンパス本館会議室
- ・出席者：和田義博委員
柿本静志総務部長、中島和彦経理部次長、安楽康彦経理課長補佐、筆記：総務・石井

<議事録>

柿本）認証評価機関による評価も法制化されて私たちもその準備を進めていますが、今回の自己点検・評価活動については、その準備の一環として大学独自の基準で行ないました。認証評価機関の基準に達していませんが、率直なご意見を頂ければ幸いです。自己点検・評価活動を行い纏めてみましたが、振り返ってみるとまだまだ足りないという部分もありますが、実態を受け止めて改善につなげたいと考えています。

和田）大学評価と言っても、ものさしが無いと難しいですね。

柿本）私も学位授与機構の国立高専の評価をお手伝いしましたが、どのようなものさしで、ということは難しかったですね。

和田）認証評価機関自体についてもその機関へのランクづけというものが生じるでしょうね。認証評価はある場面ではそれ自体が大事なのでしょうがその評価を受け止めて、大学が自らを改善していくことが大事なんだと思います。

それでは自己点検・評価報告書を事前に確認して、コメントを纏めてみました。それに沿ってお話します。今回のコメントについても、認証評価機関の基準を意識したものではありません（指摘ポイントは文末に記述）。



中島）実際に認証評価に向けて動き出すと、新たに改めるべき事項が見えてくるのかなあ、と考えています。

和田）管理運営について、意思決定のあり方、事務組織、財政状況、自己点検・評価と管理運営という点についてコメント致しました。

「意思決定のあり方」について、各種委員会の位置づけ、運営状況、委員等の人選など、分析・評価し、その改善に向けた提案がなされていますが、それはよろしいかと思います。しかし個々の委員会への改善案が検討されていますが、学校法人全体の意思決定の効果的な体制について触れていませんがいかがですか？例えば、理事長を補佐する体制など。また、外部の有識者等からの意見聴取と適切な反映、外部理事による活発な意見を反映させる体制について触れていませんか？

柿本) 理事の中には非常勤ですが、博報堂の会長や元東日本放送会長など2名外部理事がおります。最近の流れから見ると、若干足りないかな、と思われる部分もおありでしょうが、博報堂など美術関係にとって重要な位置を占めており、非常な有益なご意見を頂いております。

和田) 記載されていないだけなら、自らの良いところは積極的にアピールされるのが良いでしょう。自己点検・評価という、どうしても欠点ばかり書いてしまいがちですが、良いところは是非記載頂きたい。適正な評価に繋がりますから。

和田) 「事務組織」についてですが、各事務職員のアンケートを行い、事務職員の法人運営に関する意識の程度、職場内でのコミュニケーションの状況等の評価が行なわれています。また事業計画の周知徹底についても検討されています。これは優れた点と言えるでしょう。

結果として、目標管理や人事制度の見直しなど様々な問題提起がされていますが、真摯に取り組んでおられるんだなあ、ということが伺えます。

ですが事務組織が学校法人の意思決定に参加できる体制が整っているかどうか、記載されていません。その体制が整っていないと、教学一辺倒になりますし、その決定が単なる“決定”として事務組織に降りてくるようでは問題がありますね、いかがですか？例えば事務系出身の理事などいらっしゃいますか？

柿本) 制度として常務理事や事務局長というのがありますが、現在空席になっています。その分、各部門長と理事長の連携を強化しています。毎週1回の部長連絡会、毎月1回の部課長会を開催しています。これにはすべて理事長も参加し、方針の伝達、確認や各部門の現状や課題などが話し合われています。ここでは教学、管理運営すべての問題について検討していますし、各部門においてフィードバックも行なわれています。

和田) 私も他大学で役員をやっておりますが、事務系出身の理事がいますね。また、各部長が事務方として参加していますね。

中島) 現在の理事長は事務局長経験者ですので、理事長自身が事務にあかるくその役目を負っています。又、事務方は理事長のサポートをする形で参加しております。

和田) そうですか、了解しました。それはとても大切なことですね。



柿本) ただ、外から見た場合分かり難いですね。事務方の意見は中島が申した形で反映されていますが、制度として外から理解しやすいようにできたら、と思っています。

和田) 常務理事とか事務局長という形はこだわりませんが理事会は決定機関ですから、事務組織がそこに参加していると言う方が分かりやすいことは確かですね。すでに申しました教学一辺倒になりがちな体制ではありませんよ、という理解でよろしいですね。

柿本) 仰るとおりです。お金が絡むような問題や他の様々な問題も、必ず事務方とお入り理事会に諮りますので、教学一辺倒となることはありません。

和田) 認証評価についても、教学と理事会の関係など重視されていますね。

和田) つづいて「財政状況と資源投下」について、触れさせていただきます。

過去5年間の財政分析や大学部門及び芸術系部門との全国平均と対比分析が行なわれています。これは優れた点でしょう。

収支計算については、消費収支計算書の分析が行なわれていますが、資金収支計算書の分析が行なわれていません。これについては八王子キャンパスの整備のため、どのように資金が動いているか見難いですね。

これらの分析を見ますと、当法人は帰属収支が非常に良いですね。圧倒的に人件費、管理経費が少ないからでしょうね。人件費、管理経費が低いということは努力をされているということですね。それによる帰属収支の超過額が、八王子キャンパスの整備に生かされているということですね。

八王子キャンパス整備に関して、財政計画、執行状況、資金計画が記載されていません。また、外部資金について、寄付金や科研費などの記載もありませんが？

中島) もちろん、それらの計画はあります。ここで触れていないだけです。共同研究などメディアセンターを通して、非常に積極的にやっております。寄付金についても来年が70周年ですので、70周年事業の施設整備のための寄付金を検討しております。

和田) 積極的にお考えであるなら、アピールされた方が良いでしょうね。文部科学省でも、一般補助から特別補助に重点を移すなど、一律の補助をやめて、「良いものに補助を出す」という方針に転換していますね。これは金額の多寡でなく、その流れに対する積極性が大切のようですね。

和田) 資源投下については、人的配分について触れていますが、物的配分について触れていませんね。物的配分については、課題としてあげられていますが、これに対する対処方法が記載されると良いでしょうね。

中島) 例えばですが、今年度予算から減価償却引当金を計上し、将来の施設更新計画に備えています、記載上では課題としてあがったままになっていますが。

和田) 国立高専の認証評価でもあがりましたが、「学校の目的に沿った教育活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な資産を有しているか。また、経常的収入が確保されているか」については適切ですね。



また、適切な計画の策定と関係者への明示、それを実施する予算管理について記載がないので評価できません。予算管理は、学校の達成する目的があり、明示され、予算要求があって、予算編成され、予算策定され、審議され、実施するというものですから、予算管理は一項目付け加えた方が良いでしょうね。

もちろん、されていると思いますが。

柿本) 記載がないだけで、予算編成の調整を行い、実行予算時に再び審議をかけております。二重にやっておりますので。

和田) 「自己点検・評価と管理運営」についてですが、評価した課題について改善していくシステムに関する記載

がありませんが？現在の課題としてお持ちなのかも知れませんが。

柿本)現在の課題となっています。この自己点検・評価部会は、理事長、学長に直接繋がる教育充実検討委員会の一部会です。その他、カリキュラム検討部会、生涯学習部会があります。自己点検・評価部会をご承知のとおり活動です。今後どのように自己点検・評価部会に取り組んでいくのか、他2部会とも協力してやりたいと考えております。実際には組織規模も小さいので、各種委員会の構成メンバーが重複するなどの問題が生じるのですが。

和田)それはあり得るでしょうね。“兼務”というのは悪いことではありませんから。同一人がやるにしても、その場その場で、立場を分けて考えれば良い訳ですから。

柿本)まだそれら体制は未整備ではありますが、今回、自己点検・評価活動について今までになく多くの教職員が関わったのは大きかったと思っています。これをきっかけに良い方向に行きたいと思っています。

和田)それこそ大学評価の本来の目的ですね。失敗例としては、上から言われて、書けそうな人が書いてしまうというのはダメですね。みんなが意見を言い合って改善するのが良いのですね。一人が書いた方が、上手く書けますが、それでは意味がありませんから。

柿本)今回はみんなでやったので時間がかかりました。全教職員の意識が変わったとは思いませんが、かなり意味あることだと思っています。

和田)それを通じて、お互いが参画して意識を高めるのが良いですね。上手い方法でやられたのだと思います。

中島)それに関して自己点検・評価活動の一環として、理事長、学長が各学科にヒアリングを行ないました。その結果、必要なものが早速、予算要求され予算策定の迅速化、意思決定が早くなりましたね。

和田)30年ほど前の古い話で恐縮ですがトヨタの看板方式というのが有名ですね。あの当時社員一人々々の提案制度というのがありましたが、ある企業の方が「正直、大変で頭が痛いんですよ」という話を伺ったことがあります。その時気づいたのが、大切なのは提案の中身そのものやそれによるコスト削減といったことではないですね。それより桁外れに違うのは毎日漫然と9時 5時で勤務するのではなくて、一人々々がもう一度自分の仕事を見直すということなんですね。自己点検・評価も同じで、みんなが一生懸命やることの効果が大切なんですね。認証評価でそれが評価されるかということ、それはまた違った問題なのですが。



柿本)確かに報告書の書き方や、認証評価基準により必ずしも正確な評価が加えられるとは言えないんでしょうけど、自ら改めるべきところは意識して前進のきっかけをつかめればと思っています。確かに温度差はまだありますが、一人でもそういう教職員が増えてくれれば良いと思っています。

先ほど、人件費率についてお褒めの言葉を頂きましたが、これについても他大学との比率比較とかではなく、

その金額が仕事内容に比して本当に高いのか、安いのかまで考えていかないと、と思っています。

中島) 自己点検がゆえに出したい数字を出せないということもあります。例えば、他大学との比較とか。もっと踏み込んで分析も出来るのですが、他大学のご都合もありましょうから。

中島) 財務的な問題としては、最近では財務公開についてもあげられますね。

和田) そうですね。自己点検・評価報告書では触れられていないようですが、アピールされた方が良いですね。

中島) 報告書では触れていませんが、学内広報誌や事務所で閲覧などに供しています。監査の内容についても、公認会計士から監査の概要書を記載して貰い、それを監事に提出しています。

和田) 公認会計士は、文部科学省に提出する監査報告書以外にご覧になっている？

中島) そうですね。公認会計士に監査概要書を作成して貰い、監事に対して文書による報告を行なっています。口頭で「公認会計士から適正な処理がされているとの報告を頂きました」だけではややもすれば監事とのすれ違いが起きがちなので、補足説明を必ずするようにしています。

和田) 監事からの意見は他には付かないのですか？

中島) 何かあれば、当然記載して頂くことになっています。

国立大学などでは、監事の職務というのまだ理解が浸透していない部分もありますね。

和田) 私も私立大学や独立行政法人の監事もやっていますが、企業、私立大学、独立行政法人、国立大学の順に監査に対する意識が変わっていますね。私学法の改正で私立大学の監査については機能するように措置されましたが、独立行政法人、国立大学法人はまだまだ機能していないところがありますね。

中島) 会計処理に対する世の中の見方が変わって来ましたからね。

柿本) 国立大学の評価も収支の意識が殆どないので、それをどう評価するのは難しいですね。私立大学の場合、どんなに優れた教育をしても収支に問題があれば評価は変わってきますが、国立大学にはそれが無い訳ですから。収支を問わないで、独法化というのも私立大学の立場からすると理解しにくいものもありますね。

和田) そうですね。国立大学法人は予算で縛られますが、予算の範囲内なら良いということになりますね。収入はあがって来ないで、支出だけがあがって来ますから。結局、足りないものは運営交付金で賄われますしね。ただ、独法化の意義として国から切り離すことで、会計面だけでなく運営についても透明性を高めるということなのでしょうね。また、独法化の動きや独法評価委員会による評価によって、活性化はされた印象を受けますね。



中島) 東京都はもっとシビアですね。例えば、東京都美術館ですとか、来場者一人あたりのコスト計算とかホームページ上で出していますよね。

和田) 一般の会社なら、社長はそれこそ会社の存亡を担って日々苦勞されている訳ですからね。

柿本) 国立大学だけでなく、国立高専も合併する動きがありますね。

中島) 都立大学も合併されましたし。

和田) 独立行政法人も長期計画、中期計画というのがあって、その終了までに存続させるのかの可否が問われるようで、合併の動きもあるようです。そういう意味で、すべての法人が努力を求められるようになりましたね。競争が全て良いという訳ではありませんが、競争社会の中で責任を持った運営をすることが求められるのでしょ。

中島) それを行い、いかに公表するか、が大切なのでしょうね。

柿本) それでは時間になりましたので。今日はありがとうございました。

～和田委員よりの評価コメント～

以下、評価コメントについては上記議事録において補足説明を行なっています。

意思決定のあり方

- ・各委員会等の位置づけ、運営状況、委員等の人選等、それぞれの委員会等の状況について、分析・評価し、その問題点について指摘しており、その改善に向けた提案がなされている。
- ・個々の委員会等の機能的な活用については検討されているが、学校法人全体としての意思決定の効果的な体制が整っているかについて、触れられていない。例えば、理事長を補佐する体制が整備され、機能しているか、教学と法人事務組織との意思決定についての関係、関わり等について、整備・運用されているか等についての記載がない。
- ・外部の有識者等からの管理運営に関する意見聴取がなされ、適切に反映されているか、また、外部理事が選任され、理事会にて、活発に意見を反映させる等の体制が整っているかについての記載がない。

事務組織

- ・事務組織については、各事務職員に対してアンケートを行い、意識調査等を実施しており、事務職員の法人運営に関する意識の程度、職場内でのコミュニケーションの状況等について評価が行なわれている。また、決定された事業計画等の周知徹底についても、検討されている。
- ・結果として、計画・目標とその達成に関する意識の把握、目標管理と人事制度の見直し等、様々な問題提起がなされている。
- ・事務組織が、学校法人の意思決定に参加出来るような体制が整っているかについて、触れられていない。また、事務組織がそこで決定された事項を達成出来るような体制になっているのかについて、記載されていない。

財政状況(含む、資源投下のあり方)

- ・過去5年間の財政状況及び経営成績の経年分析を行っており、また、大学部門及び芸術系部門について全国平均と対比して分析が行なわれている。
- ・各収支項目、貸借対照表項目及び分析比率につき原因の詳細が記載されている。
- ・収支計算については、消費収支計算書の分析が行なわれているが、資金収支計算書の分析が記載されていない。
- ・八王子キャンパス整備に係る事業について、財政面からの計画、執行状況等が触れられていない。比率分析等で、少々触れているのみである。また、これを含む今後の計画につき、設備投資及び借入金返済計画を含んだ資金計画の状況等について記載されていない。
- ・外部資金の活用に関しては、検討されているが、特別補助金のみがその対象となっており、寄付金や科研費、共同研究事業等による収入等を積極的に活用する必要性について記載されていない。
- ・資源配分については、人的資源の配分について検討されているが、施設設備等の物的資源についての記載がない。八王子キャンパス整備のために実施した借入金の返済、今後の設備に関する維持管理費増加について記載がない。
- ・学校の目的に沿った教育活動等を、将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な資産を有しているか。また、経常的収入が確保されているかについては、適切である。
- ・学校の目的を達成するための活動の財政上の基礎として、適切な計画等が策定され、関係者に明示されてい

るかという観点からすると、記載が必ずしも十分とは言えない。

- ・学校の目的を達成するため、教育活動（施設・設備の整備含む）に対し、校内において明示された方針に基づいて、適切な資源配分がなされているかについて言えば、予算管理についての記載がないために、評価できない。

自己点検・評価と管理運営

なお、自己点検・評価の目的は、点検・評価の結果、改善すべき事項があれば、当該事項について、検討し、改善していくことにある。したがって、評価結果によって具体的な改善を行うシステムが整えられ、機能させなければならないが、その点について記載がなされていない。

以 上

- ・外部評価報告（管理運営以外に関して）
- ・日 時：2004.12.22（水） 9:30～16:00
- ・場 所：八王子キャンパス、上野毛キャンパス
- ・出席者：會田雄亮委員、岡島達雄委員
 森下清子自己点検・評価部会長、清田義英美術学部長、米倉守造形表現学部長、柿本静志総務部長
 恩蔵昇総務課長、中島和彦経理部次長、荒川直教務部事務部長、田中誠二造形表現学部事務課長
 筆記：総務・石井

・スケジュール

9:30～11:30	関係者挨拶・八王子キャンパス見学
11:30～12:30	昼 食
上野毛キャンパスへ移動	
14:00～14:30	上野毛キャンパス見学
14:30～16:00	座談会

・キャンパス見学







<議事録>



森下) 既にご覧頂いています自己点検・評価報告書と関係資料、本日のキャンパス見学で多摩美術大学がどのような点を改善すべきか、率直なご意見頂けたら幸いです。既に12月20日に管理運営については和田義博先生にご意見頂いておりますので、教育・研究を中心にご意見をお願い致します。先生方のご意見を基に、色々と改善、発展に結びつけることができれば、と考えております。



會田) 私の大学経験から言いますと、多摩美術大学は一番キャンパスも設備も良く非常にすばらしい大学だと印象を持ちました。画期的なのは、各学科がそれぞれギャラリーを持っていることですね。学生が自分でつくったものをちゃんとした場所で発表できるということは、これは一番嬉しいことですね。以前学長を務めておりました東北芸術工科大学も多摩美を参考に、サロンと展示場を備えた研究棟をつくるなど色々と改善しました。ただ多摩美に限ったことではありませんが、日本の大学や教育に対して感じていることがあります。

「日本文化の基盤」というものの恩恵を私たちの世代は受けています。例えば、建物があって、その中に

調度品があって、日常使うものがある。それぞれが非常に質が高く、バラエティーに富んでいて、日本人の感性がそこに表明されているんですね。床の間などは季節々々の花や軸、置物を飾って自らの季節感を表現する、日本が誇る世界で唯一のプライベートなギャラリーだと思っています。また、素足で畳を踏むとか、下駄を履くと言った日本人の「素足の感性」が失われています。「日本文化の基盤」が失われていく時代に、美術大学の担う責任というのは非常に大きいですね。

美術大学はどうしても創作中心になり作家養成に重さが置かれる傾向にありますね。しかしピカソが10人いても、その国の文化は生まれないものだと思います。私は若い頃、アメリカにおりました。アメリカは非常に刺激も強く新しい芸術が沢山生まれているんですが、日常は非常に粗末なコーヒーカップでコーヒーを飲むといった有様なんですね。良い家庭で使われている品質の良い器などは、ほとんどがヨーロッパや日本から輸入されたものという、惨憺たる状況です。日本もそのようになって来たのかなあ、とも思うのですが、それを失ったら日本の存在価値は無くなりますね。「日本文化の基盤」をもう一度育てるような芸術的なづくりをもう少し考えられないものか、と考えています。

東北芸術工科大学でもそうでしたし、東京芸術大学でも、多摩美術大学でもそうですが、設備も人材もいる、しかし思想的裏付けといいますが、「日本文化の基盤」ということを考えたとき、大きな意味での芸術教育はこのままで良いのかと疑問をもっています。キャンパスを見学致しまして、多摩美術大学でもそういった矛盾はないのかなあと思いました。

もう一点として、多摩美でも国際交流に力を入れておられるようですが、海外の学生の意欲は素晴らしいですね。東北芸術工科大学とスタンフォード大学で協定を結ぶために、スタンフォード大学を訪問したのですが、日本では見られないキリッとした東洋の若者がいました。優秀な日本の学生はみんなここに居たのか、と思ったのですが、そのほとんどが中国、韓国系の学生だそうです。日本からの受験者数は一番多いそうですが、合格して在籍しているのは数%程度だそうです。

6・3・3・4制の大学の機構のままで、依然として大学入学後、一般教養を行なっていますが、かつての予科みたいに2年くらいで一般教養を終わらせ、大学では専門教育を徹底的にやる、ということが出来ないものかなと考えています。海外の学生と比べると、そこに力の差が出ていますね。そのあたりを多摩美ではどのようにお考えですか？

岡島) 自己点検・評価報告書を見て、非常に中途退学者が少ない、ほとんどが4年間で卒業しているというのに気がつきました。悪い年、悪い学部で7%くらい、ほとんど1%程度というのは、どのような基準で卒業させておられるのだろうかと思いました。

観点を变えて、生涯学習センターについて高齢者だけでなく多く子供の参加が多いというのは、非常に将来が楽しみで良いことだと思います。また受講料についてですが、無料であるならこれだけ受講者が多いのですから有料を考えても良いのかなあ、と、有料であるならどの程度を狙って受講料の設定をされているのかなあと思いました。

それと小中高との連携授業ですが、受験生対応ではないんでしょうが結果として、連携高校からの進学率が上がったというのは両者にとって良いことかと思えます。

また他大学では真似できないこととして、学外美術館を持ち社会の接点として大学の情報発信と、社会からの動向を掴むことをしていることですね。さらに資料センター構想なども、新設大学にはできない良い資産をお持ちだと思います。

図書館の蔵書数ですが、11万冊というのは一般的に少ない方だと思いますが、公共図書館との連携でそれぞれの持分を生かして補完するというのはうまいシステムだと思います。

森下) ありがとうございます。まず會田先生が仰られた「思想的裏付けをどのように教育に反映するか」という課題は、教育の根本ですね。本学では、教養教育を通じた思想的裏付けについては主に共通教育にそれを委ねることにしています。実技は各学科で責任を持って行い、その根底にあるものの考え方の広がりも共通教育を通して行なうということを中心に、清田学部長を筆頭にカリキュラム検討部会を立ち上げてカリキュラム改革をしつつあるという状況です。

會田) 共通教育というのはどの程度のレベルですか？

清田) たまたま今日、ロンドン大学のお客さんが見えてまして、會田先生の仰られた大学における専門科目の話題が出たところでした。

會田) 欧米の大学では、ほとんどが専門科目を徹底的に行いますよね。欧米ではほとんどが大学に行く前にジュニア・カレッジのようなところに行きますね。そこで一般教養を終わらせてしまう。大学というのは専門大学です。アメリカも日本と同じく6・3・3・4制を採っていますが、実際にはジュニア・カレッジのようなところに行く人が多いですね。また出入りも自由です。世界と競争していく訳ですから、その力の差を痛切に感じます。大学院を強化するということが良く言われますが、それはどこの国でもやっていますから、学部における力のギャップを埋めないといけませんね。場合によっては、それこそ小・中・高・大の一環教育というのも一つの手ですね、素人考えですが。

清田) 共通教育の問題としては卒業単位が124単位ですから、専門科目で概ねカバーでき共通教育科目をあまり履修しなくても、卒業できてしまうという傾向があります。



森下) 例えば環境デザインの建築分野ですと、會田先生が仰った建築のための一般教養と専門科目で卒業できてしまう。そうすると必要であるはずの教養教育が欠けてしまいますね。昔は卒業単位が多かったですが、124単位に卒業要件が変わりましたから。

會田) そうですね、教養教育は必要ですね。美術系ですと、技術、知識の習得に時間が取られてしまいますしね。今度、私の事務所ではじめて多摩美出身の学生を採用しました。面接の時に色々を見せて貰いましたが、弱いところはプロダクティブな部分なんです。オブジェは造れるが、ちゃんとした皿が造れない。オブジェも悪くないですが、もう少し基本的なものもあって良いんじゃないかな、と思います。

例えば私の専門の陶芸ですと、大学において自分の釉薬と土を自分で造っているか疑問なんです。報告書を見ると、6週間くらいのテクニカルというコースがあるようですが、その期間では自分のもののできる十分な時間ではないですね。その技術が欠落していると、結局、釉薬や土を買うことになってしまう。私のところでは、粘土から釉薬まですべて自家製です。プロというのは、そういうものなんです。そこが昔の教育と違うところですね。確かに今は便利になりましたが、ある意味、芸術優先の甘やかしとも言えますね。根っこができて来なくて、人を使う人間として逆に言えば2、3年間は使えない、再教育をし終えたところで、独立してしまうという悪循環ですね。

清田) 大学の学園祭では陶芸の学生が造った器などが、飛びぬけて人気があるようですね。

會田) それが基本ですね。

米倉) 「日本文化の基盤」というのは全く同感ですね。それは日本人の美意識の「発生」をさぐる問題ですから。共通教育において、本当にやらなくてはいけないことです。私が学部長を務めております造形表現学部は、社会人入試により社会人を多く受け入れております。一般の大学を終えてきている学生も多いので、比較的楽に実技に入るといってもあります。

その中での理論系教員の役割は、実技系教員と一緒に授業を担当することで見えてきますし、それによる教

育効果もあがっていますね。例えば、理論系教員と実技系教員が一緒になって一つの科目を担当することがあります。造形学科での批評会は、理論系と実技系教員が一緒になって話し合うのですが、そこで話題になるのは、やはり會田先生が言われたような「日本文化の基盤」ということなんです。

會田) それは教育制度だけでなく、日本そのものの問題ですね。

米倉) 美術系大学のシステムそのものはヨーロッパ風にできていますから、それを引き戻すのは大変なことなんです。

清田) 岡島先生にご意見頂きました図書館の蔵書数についてですが、新図書館を計画しておりますして30万冊を目標にしております。

またドロップアウト率の低さですが、転学部・転学科、3年次編入などによる離籍は含めておりませんのでドロップアウト率が低くなっています、ご注意ください。ただドロップアウト率が低いのは、目的を持って学んでいる学生が非常に多いと強く感じますね。

それから小・中・高との連携ですが、始まってから間もない取り組みです。鑓水小学校、片倉高校、都立芸術高校と連携を行なっております。

荒川) とくに鑓水小学校とはここ5年くらいになります。鑓水小学校の場合、受験生の囲い込みとかいうことではなく、PCを用いた教育技術の研究を行なっている教員の研究活動がきっかけでした。それが発展して、鑓水小学校の学外実習、本学でのオープンキャンパスに相互で参加したり、本来の連携の意義が生かされた価値ある取り組みだと思っています。

岡島) 手伝いをする学生もやりがいを感じていらっしゃるんですか？

荒川) そうですね。本学独自のアンケート実施や、教育委員会による評価においても双方にとって非常に有意義であったことが検証されました。

會田) 鑓水小学校と交流していることは非常に良いことですね。日本の制度というのはなかなか変わりませんから、そのような連携をとおして独自の教育システムを創るというのは私立大学ならですよ。

米倉) 私がセンター長を務めています生涯学習センターの講座でも、定員をすべてオーバーするほど子供の受講者が多くなっています。教えている教員の中でも、ここで美術の面白さを教えておかないと将来、美術学校に行く人間がいなくなってしまうのではないかと、という危機感を持っていますね。「多摩美術小学校」と称した講座なんですが、非常に子供が興味を示しており、現場では手ごたえを感じています。

會田) 行政の遅れは、現場で解消できるのかも知れませんね。

米倉) 岡島先生からご意見頂いた生涯学習講座の有料、無料については双方あります。無料講座を開いて興味を持って頂いて、有料講座につなげたいと思っています。

荒川) 生涯学習講座については、通信制の高校から授業として受講したいという申し出もあって、話しが進んでいます。弾力化の中で色々な広がりが出てきていますね。

會田) 多摩美ではセメスター制は行っていないんですか？

清田) 再来年あたりに導入しようと検討しています。

會田) どのようなシステムで検討されていますか？

森下) 前期・後期型です。通年科目は、前期1・後期2と分けて行なう予定です。

會田) 単位のプール制はお考えですか？

清田) まだそこまで議論が進んでおりません。

會田) 日本で一番行なって欲しいのが、単位のプール制ですね。セメスターで単位を発行して、5年とか10年とかその単位を有効にする、そうすると出入りが自由になりますから。

日本の一番の問題は「学生」という社会層を持っていることですね。大学は義務教育でも何でもないので、親がかりにならずに自らの責任で大学に行くのが良い。そうすると4年間ずっと大学に通うのは無理ですから、単位の持ち歩きによって自分のペースで大学に通うことができますね。こういうシステムを是非、日本でも取り入れて欲しい。その突破口を作れるのは私立大学だと思います。

會田) 単位互換、セメスター制を活かすのが、プール制ですね。そういう自由度が広がると日本の教育制度は良くなりますね。

柿本) 放送大学がそのような制度ですね。

岡島) 教育の自由度ということだと、9月入学もありますね。琉球大学では9月入学・卒業制度があります。地

の利と言いますか、ハワイやインドネシアなど太平洋地域の留学生が400人を超えています。多くの国が9月入学ですから、スムーズな受け入れが可能ですね。9月入学でない国があっても入学には準備期間が必要ですから、その意味でも9月入学は有効ですね。以前は留学生がそれほど多くありませんでしたが、9月入学を取り入れたところ、留学生が増えて来ました。

會田)今の制度ですと、留年者の9月卒業というのが殆どですからね。

荒川)すでに9月入学をやっている大学が話題になりましたよね。ただ、カリキュラムや学事の問題が生じますね。4月、9月制の2つを並行してカリキュラム、学事を行なう必要がありますから。



會田)一つの手段として、「飛び卒業」というのもあるんじゃないでしょうか？優秀だから半年前に卒業を認めるという制度を作っておけば、海外との学生交換が楽になりますね。多摩美の交換留学は、どんな期間でやってますか？

荒川)ヘルシンキ大学と3ヶ月と6ヶ月でおこなっています。

會田)短期だと3ヶ月が良いですね。6ヶ月だと両国での試験や卒業制作のことがあり、難しいですね。

會田)現場に戻っての質問をさせて頂いて良いですか？工芸学科の中で、金属、陶、ガラスとコースがありますが、それぞれのコースを勉強できるようになっていますか？

荒川)コースは分かれています。3つの素材を勉強できるのが、1年次になります。それを解消する為に今年から推薦入試と一般入試の二本立てとしました。推薦入試は従来どおりコース別、一般入試はコースを分けない試験形式を取りました。1年次は全員で授業を行い、2年次よりコースに分かれていく仕組みに改めました。

森下)やはり、そこは問題だという認識がありシステムを改めました。

會田)金属、陶、ガラスのコースごとで立派な設備があるのですから、1年次だけでなく力のついた3年次くらいに3素材を扱う講座があると面白いですね。

私みたいに環境造形の仕事をやりますと、焼き物をコンクリートにどう貼れば良いか、鉄骨をどう扱えば良いか、という技術的な問題が生じます。折角、設備をお持ちなのですから学生の内に、それらの技術を学んだ方が良いでしょう。

荒川)これまでも他の素材を扱う課題の授業があり、学生の作品には陶・ガラス・金属の素材を結びつけたものも制作しています。

清田)教育システムについてお話頂きましたが、岡島先生からご意見頂きましたドロップアウト率や、會田先生にご意見頂きました教養教育など、教育目標の話題についてさせて頂きたいと思います。ドロップアウト率については、先ほど申し上げた数字は転学部・転学科、3年次編入など活発ですので、実質の出入りは若干多くなっています。いかがですか？

岡島) それでも1割ほどですよ。私が経験した工学部では多いところでは50%ということもありました。数学が出来なければ、取れるまで進級できないと言うように。すべての大学ではないですが、多くの大学で大量に進級できなかつたり、卒業できなかつたりで指導を受けていますね。

「それは厳しく良い教育をしているんだ」と今までは言ってきましたが、これからは教育体制の見直しが求められるのではないのでしょうか？

森下) 逆に教え方が悪いのではないか、ということになりますね。

岡島) そういうことにも、なりかねませんね。それで最近、「この学部・学科を出たら卒業時に、が出来ますよ」ということを明確に示すようにしています。それに沿うように教育を進め、一人一人チェックしていくという取り組みを行なっています。それをハッキリさせれば、学生の意欲も引き出すことができますね。多摩美のドロップアウト率が非常に低いので、先ほどその質問をさせて頂いた次第です。

岡島) それと教養教育についてですが、先ほどお話のあった学科に所属するオープン科目をベースにして教養教育を行なっていくということになるのですか？

森下) そうではないですね。最近は各学科のジャンルの垣根を越えた動きが見られます、例えば油画の学生がPCを用いて作品を創ったり。各学科の専門科目を他学科の学生が履修できるオープン科目というものを設けました。それらの動きに対応するのが、オープン科目の活用です。

清田) 今までファインアート系、デザイン系が各学科ごとに別個に動いてましたので、それを全学的なものに開放しようと考えている次第です。

森下) 思想的な裏付けを担って行くのは共通教育で行なうことになります。美術大学の学生として、どのような教養が必要なのか、議論して行く必要が生じ、検討しております。

會田) 「日本文化の基盤」を創りたいということ、属に言う教養ですよ。

清田) 私は歴史学と日本文化史論をやっております、會田先生にお聞きしたいのが赤坂憲雄さんの東北学ですが、大学ではどのような位置づけを取られているのですか？

會田) 東北学というのは文化財修復と同じように、一般に興味を持っている方は沢山いるんですね。逆にそれだけ広がりを持っている訳ですから、講座を設けるだけでは弱いので東北文化研究センターを設置しました。大学と県それぞれから5千万円ずつ運営費を出し、そこに専任教員4名を配置して講座を行なう格好です。ある意味では独立採算ですね。友の会を作ったり、出版したり工夫をしていますね。

それと他に文化財保存修復という学科がありまして、従来の洋画に留まらず、仏像とか日本の文化財含めた文化財保存修復研究センターを設置する動きに繋がりました。そこらじゅうに教材がある訳ですから、学生は実地の勉強ができますし、保存修復のビジネスとしても考えていけますね。

その意味で今日、多摩美を見学して一番感銘を受けたのは、NHKと共同で川本喜八郎さんのアニメーション撮影 (<http://www.idd.tamabi.ac.jp/kihachiro/>) に学生が取り組んでいたことですね。あれは素晴らしい教育ですね。実際に使うものですから手を抜けませんから、怒られ怒られしながら実地の技術を修得していくのは良いことですね。産学共同を盛んにされてるようですが、今日見学しました撮影などは一番感銘を受けましたね。

清田) それでは共通教育の位置付けというのは、東北芸術工科大学ではどのようなものでしたか？

會田) 私が辞める前に「教養を考える」という委員会を作って根本的に考え直しました。デザインや芸術系の大学に即した、それらの素養を高める一般教養のあり方はないかと議論しました。

当時、一般教養の先生が孤立していました、制度上必要なだけだとか、片隅に追いやられて。これでは優秀な人材も流出しますし、これでは拙いということになりました。芸術に直接関わる一般教養のあり方を補強しましたね。例えば、一般教養でのPCの講義でも、「自分の自画像が書けること」というのを課題にしました。そうすると実社会でも割とツブシが利くんですよ。大問題ですね、それは。

岡島) 先ほど中途退学者の卒業要件で申上げたことにもなるのですが、會田先生が言われたように、「この学部を出れば、PCで自画像が書けますよ」とか「この学部を出れば、自分の土、釉薬が作れますよ」ということを明らかにすることが出来ないものかと思えますね。そうすると、卒業認定もハッキリしますし、入学者も目標がハッキリして来ると思えますね。いくらかの大学で目標を掲げるようになって来ているようですね。

それがカリキュラムに反映されていくのが一番良いのじゃないか、と考えております。

教養教育については、多くの大学で教養を無くし教養の教員を専門学科に入れていきます。その教員がいる間

は教養的講義ができますが、その教員が定年を迎えると教養的講義ができる人がいなくなってしまいますね。と言いますのは、学科所属ですから学科の意志が強く働き、教養的な講義ができる人を必ずしも選ばなくなってしまいます。教養教育というのは専門のための基礎になるということは確かにありますが、いわゆる教養の専門の方というのが生き残る余地が必要ですね。

會田) 大学の伸びるのは人材ですから、採用、昇格の基準や手続きをどのようにされていますか？教授会で全て決めると言う訳ではありませんか？

柿本) 制度的には教授会は資質審査という位置付けで、最終決定は理事会です。学科の意見は尊重しますが、理事長、学長が多角的に審議します。

また人数は少ないですが、任期制、特例勤務という制度を使って人材の確保に努めています。

會田) 東北芸術工科大学は公立並みにスタートしましたので、すべて教授会で決定して膠着してしまい困りましたね。自分より優秀な人材を呼んでこないとか、学科の恣意的な昇格になりがちであったり弊害が生じました。そこで教授会から人事を離し人事委員会を設け、学科からあがったものをオープンにしました。人材が大切ですから、大事なことなんですね。

荒川) 理事長、学長、学部長、研究科長、教務部長がヒアリングし大所高所の審議を諮り、バランスに考慮していますね。



森下) 人事委員会という名称はついていませんが、ヒアリングがその役割を負っていますね。

それでは時間もそろそろですから。今日はお忙しいところ、貴重なご意見を頂きましてありがとうございました。今日頂いたご意見を様々な形で検討し、役に立てて行きたいと考えております。本日はありがとうございました。

以上